

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

欧州ではこの時季、芝の平地競馬がシーズンオフに入っている一方、佳境に突入しつつあるのが障害戦だ。クリスマス明けに各地で各路線における前半戦の総決算となる戦いが行なわれた後、現在は3月10日(火曜日)から13日(金曜日)までチエルトナム競馬場で行われる欧州障害シリーズ最高のビッグイベント「フェスティバル開催」に向けて、競馬ファンは「居酒屋談義」ならぬ「バブトーキ」に忙しい日々を過ごしている。

4日間で13のG1を含む20もの重賞競走が行なわれるチエルトナムフェスティバルで今年、最も大きな話題を集めている「スーパースター」候補が、開催初日に組まれたハードル2マイル路線の総決算G1チャンピオンハードル(芝16F 110Y)へ向けた前売りで、ブックメーカー各社が2.1倍～2.25倍のオッズを掲げて1番人気に推しているフォーヒーン(セイ、父ジャーマニー)である。

フォーヒーンはジョン・ウォルドロン氏による愛国における生産馬。未出走馬ミスピツケリングの3番仔として産まれた同馬は、当歳秋にタタソールズ・アイルランドのノヴァンバー・ナショナルハントセールに上場され、セールスリングでは主取りに終わつた後、直接交渉で話がまとまり4千ユーロでピーター・クインラン氏が購入。デイ(1月26日)にケンプトンで行われた

更に3歳6月にゴフス・ジューン・ナショナルハントセールに上場され、メドウビューステーブルが1万2千ユーロで購入後、4歳4月にパリースティーンで行われた距離3マイルのポイント・トゥ・ポイント競走で8馬身差の勝利を収めた後に、投資顧問として財をなしたリッチ・リッジ氏に購買され(登録は夫人名義)、愛国の名門ウイリー・マリンズ厩舎の一員となつた。

5歳春にパンチエスタンのナショナルハントフラット(芝16F)に出走し、22馬身差で勝利した後、満を持してハードルデビューを果したのが13年11月で、パンチエスタンのメイドン(芝22F)を6.1/2馬身差で快勝。ナーヴアンの一般戦(芝20F)も4.1/4馬身差で勝つと、続くライムリックのG3リバティン・ショランスノーヴィスハードル(芝24F)も5馬身差で制し重賞初制覇。そして昨年のチエルトナムフェスティバルではG1バーリングビングハムノーヴィスチャイス(芝21F)に挑み、ここも4.1/2馬身差で制して初G1をゲット。続くパンチエスタンのG1チャンピオンノーヴィスチャイス(芝16F)も12馬身差で制し、ハードル初年度を5戦5勝の成績で終えている。そして迎えた今季、緒戦のG2アスコットハードル(芝19F 110Y)を3.3/4馬身差で勝つと、ボクシング

G1英クリスマスハードル(芝16F)を8馬身差で完勝。ハードルの連勝を7に、デビューや以来の連勝を9に伸ばしたのだった。
2着との差が最も少なかつたのが今季初戦の3.3/4馬身という、その成績を見るだけでもフォーヒーンの圧倒的強さは一目瞭然だが、お時間のある方はぜひ、レイングポストのサイトなどで映像を御覧いただきたい。勝負どころで鞍上が気合いをつけるとスッと反応し、パワフルな脚を伸ばすレース振りに、誰もが目を見張らされることと思う。

その連勝記録はいついたどこまで伸びるのか。このままスーパースターへの道を歩んでいくのか。大きな関心を集めているフォーヒーンにとって、デビューや以来最大の試練となりそうだが、G1チャンピオンハードルだ。前年に続くこのレース連覇を狙うジエツキ(セイ)、前年の3着馬で、それ以降は4.1/2馬身差で制した前走のG2インターナショナルハードルを含めて4連勝中のザニヨーワン(セイ)、11年と13年のこのレースの勝ち馬で、前走G1ライアンエアハードルで自身21度目のG1制覇を果した古豪ハリケーンフライ(セイ)など、目移りするような顔触れを相手にしてフォーヒーンがどんな競馬を見せるか、皆様も3月10日のG1チャンピオンハードルにぜひご注目いただきたい。